

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名

【 熊本県 】 熊本市立力合西小学校

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	4・5・6年生 241 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。また、障害者理解や共生社会への理解を促す。
5 取組内容	パラリンピアンによる講演会及び実技指導 平成30年2月1日(木)に本校にて、浦田理恵氏(オリ陸上：400メートルハードル)を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 浦田氏の講演の概要は以下の通りである。 20歳のときに「網膜色素変性症」で急激な視力低下に襲われた。視覚障害者の見え方には様々なタイプがあり、私は左目はまったく見えないが、右目は光を感じることができる。視野の広さや視力の強弱がそれぞれ違う。 目が見えない人にとって大切なのは、耳。今日も入場するときみんなの拍手や声を聞き、歓迎されているのだと感ずることができた。視覚障害者が音で色々な情報を得ているということを理解し、質問があるときには大きい声で言ってほしいし、音をしっかり出して表現してほしい。 ゴールボールは皆が同じ条件下でプレーするために、アイシェードをつけて真っ暗な中でプレーをする。なので、健常者もプレーが可能である。音の鳴るボールを転がして、相手のゴールにシュートするスポーツだが、ボールの音が重要なので試合中に観客の声援はない。静まり返っている。

	ゴールボールで大切なことは、2つあり、1つが相手への思いやりの心、そしてもう1つがコミュニケーションをとるということ。 ゴールボールを始めて14年になるが、私は小さい頃は体育がとても苦手で、失明してからまさか自分がスポーツに関わるとは思ってもみなかった。目がどんどん見えなくなったときは、目が見えないことで他の人たちより劣っていると思われるんじゃないかと、周りに見えないことを伝えられなかった。周りの人が離れていってしまうんじゃないかと見えるふりをしたりしていたが、そのうちに家に引きこもるようになり、どん底の中で死にたいとも考えた。 しかし、死ぬくらいなら本当のことを伝えようと思い、勇気を持って目が見えないこと、助けてほしいことを回りに伝えた。色々な人たちが私を助けてくれ、当たり前だったことがとってもありがたいことだったのだと感じた。自分でできることは何か、目で見えることは苦手になったけど、ほかにはできることを少しずつ増やしていった。そしてゴールボールに出会った。 見えない私には、見えない私なりのやり方がある。やってみること。できるかはわからなくても、やるかどうかは自分で決められる。失敗しても、やり方を変えたり、続けたりする、それだけ。失敗を恐れずに、仲間の声をしっかり聞いてトライしてほしい。 (2) 実技体験 ・目隠しをしてキャッチボール体験 ・浦田さんの実技（先生方とチームを作り実施） ・子供たち同士の対決 ・浦田さんに挑戦（浦田さんと子ども達の対戦）
6 主な成果	講演内容からみた成果 障害者に対する理解が深まった。
7実践において工夫した点 （事業の特色）	実際のコートを作成し、アイマスクを付け、ボールボールの体験を実際にすることができた。
8主な課題等	次年度に向けて、継続的な事業の実施。
9来年度以降の実施予定	未定。